

福祉サービス第三者評価結果報告書(平成30年度)

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 162-0825

所在地 東京都新宿区神楽坂2-4 結城ビル4F

評価機関名 特定非営利活動法人 NPO人材開発機構

認証評価機関番号

機構 02 - 005

電話番号 03-5206-7831

代表者氏名 理事長 水谷 正夫

以下のとおり評価を行いましたので報告します。



評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	水谷 正夫	福祉、経営	H0402001
	②	草野 澄江	福祉	H0202082
	③	安富 悠子	福祉	H0602001
	④	大内 和史	経営	H1401003
	⑤			
⑥				
福祉サービス種別	児童発達支援センター			
評価対象事業所名称	江東区こども発達センター		指定番号	1350800254
事業所連絡先	〒	135-0043		
	所在地	東京都江東区塩浜2-5-20		
	TEL	03-5632-2591		
事業所代表者氏名	田村 満子			
契約日	2018年 12月 13日			
利用者調査票配付日(実施日)	2019年 1月 7日			
利用者調査結果報告日	2019年 3月 1日			
自己評価の調査票配付日	2018年 12月 13日			
自己評価結果報告日	2019年 3月 1日			
訪問調査日	2019年 3月 8日			
評価合議日	2019年 3月 22日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は、保護者を対象にアンケート調査を行った。利用者調査票は、事業所から保護者に送迎時配布してもらい、評価機関が郵送または事業所に回収ボックスを設置し回収することで、個々のプライバシーにも配慮した。また評価にあたっては、日常の療育の様子や子どもと職員との関わりを観察して評価の補完とした。さらに、11月に開催された公開療育にも参加して、法人や園の取り組み内容の理解に努めた。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

31年 3月 29日

事業者代表者氏名

田村 満子





1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>＜法人の理念＞ 法人は、日本の特定非営利活動事業に基づき、心身の発達に障害や遅れをもつ一人の子どもとしての権利を保障し、その障害に対して合理的配慮を行い、発達支援、家族支援、地域支援を実践することを通して、福祉の増進、こどもの健全育成を図る活動を行い、社会全体の利益の増進に寄与する活動を行う。</p> <p>＜事業所の大切にしている考え＞ 1)一人の子どもとして生きる・生活する権利を尊重し、合理的配慮に基づいた支援であること。 2)一人ひとりのニーズに合わせた、ライフステージを見通した発達支援であること。 3)子どもを養育する家族の意向を尊重し、家族を支える支援であること。 4)子ども・家族は地域とつながり、地域の中で相互に貢献し合える様に支援すること。 5)職員は、本人・家族・地域の支援をとおし謙虚に豊かな人間性を養い、支援に還元すること。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感を持ち、業務に対し使命感、意欲、積極性を持ち、自立的に関わる。 ・他者への思いやり、養護性を持ち、コミュニケーションに努める姿勢を持つ。 ・各々の専門資格に基づきながら、配属部署や委員会の業務を理解し、各々の施設並びに法人の一員としての自己の役割に努める。 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者、保護者への謙虚な傾聴姿勢、自己の行動を振り返る姿勢。 ・同じ志を持つ者として職員同士がコミュニケーションを図り、学び合い、助け合う。 ・日頃の業務や研修をとおして、業務への興味・関心や、自己の専門性の向上心を養う。 ・業務を通して企画力、構成力、宣伝力などの様々な運営の力を育て、業務の役割分担の適正化を図る。

調査対象

調査時点での登録児305名(男児236名・女児69名、平均年齢4.3歳)の全保護者を対象とした。

調査方法

全保護者へのアンケート調査を実施することとし、利用者調査票は、事業所から保護者に送迎時配布してもらい、事業所に設置した鍵付きの回収箱に投函するか、直接評価機関へ郵送することでプライバシーに配慮した。

利用者総数	305
利用者家族総数(世帯)	305
共通評価項目による調査対象者数	305
共通評価項目による調査の有効回答者数	105
利用者総数に対する回答者割合(%)	34.4

利用者調査全体のコメント

「江東区子ども発達センター 塩浜CoCo」に対する総合的満足度を質問したところ、「大変満足」47名(45%)「満足」48名(46%)「どちらともいえない」7名(7%)「不満」「大変不満」はともに1名の回答であった。満足群は95名で全体の90%を占めている。「通うことが身体機能や健康状態に良い影響を与えている」「職員の言葉遣いや態度、服装などが適切」「活動は興味や関心を持てるものになっている」などの質問では満足度が高かった。一方、「困った時に職員以外の人に相談できることをわかりやすく伝えている」「生活スペースは清潔で整理された空間」「不満や要望を伝えた時の職員対応」では満足度は高いとはいえなかった。コメントでは、「先生のおかげで子どもがのびのび育っています。いろいろな成長することができ感謝しています」「職員の皆様のレベルが高く、親身になってくださる施設はなかなかないと思います」「様々な障害の子どもに寄り添ってうまく対応してくれています。また、個々の動きをしっかりと見ておられます」などのコメントがあった。また、「今年度は受け入れ人数を増やしたことにより、手が行き届いてないように感じる」といった声も聞かれた。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 事業所に通うことが、子どもの身体の機能や健康の維持・促進の役に立っているか	98	6	1	0
「塩浜CoCoに通うことが、お子さんの身体機能や健康状態に良い影響を与えていると思いますか」との質問に、98名(93%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に6名(6%)、「いいえ」には1名の回答があった。「先生方も親身になってがんばってくれていて、子どもにもその気持ちは伝わり、楽しみなども覚え、いろいろな経験につながっています」「運動面・造形創作面に問題がないので受け入れてくれてとても助かりました。他の子との関わりを教えてもらったり、毎回の活動を楽しんでいます」とのコメントがあがった。				
2. 事業所での活動は、子どもが興味や関心を持てるものになっているか	95	9	1	0
「塩浜CoCoでの活動は、お子さんが興味や関心を持てるものになっていると思いますか」との質問に、95名(90%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に9名(9%)、「いいえ」には1名の回答があった。「様々な種類の活動をしてくださるので興味の幅が広がったり、好きなことが増えたと思う」「プログラムを変えて、飽きないように工夫されています」「わかりやすく、子どもが興味を持ってやっていると思います」とのコメントがあがっている。一方、「昨年度と比べると質が落ちたと思います」といった声も聞かれた。				
3. 事業所に通うことが、子どもの情緒面での発達(感情のコントロールを身につける等)の役に立っているか	91	11	1	2
「塩浜CoCoに通うことが、お子さんの情緒面での発達(感情のコントロールを身につける等)の役に立っていると思いますか」との質問に、91名(87%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」は11名(10%)、「いいえ」には1名の回答があった。「他では(ダメ)で済ましてしまうことを時間をかけて接して、抜け出せる力になっています」「先生方が話をよく聞いて受け止めて下さることから、大人と話すことに抵抗がなくなってきたように感じる」とのコメントがあった。また「直接的な役立ちは感じられない」との声も聞かれた。				

4. 事業所に通うことで、子どもに社会性(人と人との関わり合いやルール等)が身についているか	87	15	1	2
「塩浜CoCoに通うことで、お子さんに社会性(人と人との関わり合いやルール等)が身につけてきたと思いますか」との質問に、87名(83%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に15名(14%)、「いいえ」には1名の回答があった。「少しずつルールのある遊びや他人と混じる活動に参加することが増えてきた」「集団遊びで少しずつ周りを見られるようになっていのがわかります。母子1対1の毎日では得られなかった貴重な時間です」「入所して本当に変化がたくさんあった」といったコメントがあがっている。				
5. 子どもの様子や支援内容(体調変化時の対応含む)について、事業所と情報共有できているか	91	13	1	0
「お子さんの様子や、支援の内容(体調変化時の対応含む)について、塩浜CoCoと情報共有できていますか」との質問に、91名(87%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に13名(12%)、「いいえ」には1名の回答があった。「少しの変化にもすぐに対応してくださって、安心してお任せしています」といったコメントがあった。また、「面談の回数が今年度から減ったため先生と話す機会も少なく、本人は細かい話はできないので何をやったかわからない日が多々ある」などの声も聞かれた。				
6. 家族に対する精神的なサポート(子育てに関する悩み相談や進路相談、家族間交流の機会の提供等)は役に立っているか	82	18	4	1
「家族に対する精神的なサポート(子育てに関する悩み相談や進路相談、家族間交流の機会の提供等)は役に立っていると思いますか」との質問に、82名(78%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に18名(17%)、「いいえ」には4名(4%)の回答があった。「その都度的確なアドバイスをくれます。うまくいかない時は、また違った方向からのアドバイスをくれます」「丁寧に話を聞いてくれていると思います」とのコメントがあがっている。また、「相談、家族間交流の機会がない。交流の場がほしい」などの声も聞かれた。				
7. 事業所内の清掃、整理整頓は行き届いているか	76	23	4	2
「あなたは、塩浜CoCoの生活スペースは清潔で整理された空間になっていると思いますか」との質問に、76名(72%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に23名(22%)、「いいえ」には4名(4%)の回答があった。「限られたスペースで難しいと思いますが、廊下に物品が多いので整理・収納を期待します」「仕方ないと思うが、廊下や部屋の隅にたくさん物が積んである」「プレイスペースや椅子の積み重ね等、危険な箇所がある」といったコメントがあがっている。				
8. 職員の接遇・態度は適切か	96	6	3	0
「あなたは、職員の言葉遣いや態度、服装などが適切だと思いますか」との質問に、96名(91%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に6名(6%)、「いいえ」には3名(3%)の回答があった。「常に対等に寄り添う形で話されています」といったコメントがあがっている。また、「先生にもよりますが、あまり笑顔のないことがあり気になります」「子どもへの対応についてですが、あからさまに態度に出ていることがあり、保護者として気になることがあります(ため息をついたり、冷たい反応)」などの声も聞かれた。				
9. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	85	5	1	14
「お子さんがけがをした時、体調が悪くなったときの、職員の対応は信頼できますか」との質問に、85名(81%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に5名(5%)、「いいえ」には1名の回答があった。「必要な際は電話をくださったたり、細かく教えていただけるので安心です」「いつもすぐに専門スタッフさんが駆けつけてくださっていて頼もしいです」「すぐに看護師さんに伝えて、見てくれるので助かります」「すぐに教えてくださるのでとても信頼できる」「とてもしっかり対応してくれています」などのコメントがあがっている。				
10. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	85	6	1	13
「あなたは、子ども同士のいさかいやいじめ等があった場合の職員の対応は信頼できますか」との質問に、85名(81%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に6名(6%)、「いいえ」には1名の回答があった。「他の子ども同士のいさかひの際に対応を見ていて信頼できると思いました」「親が入るより先生などが対応してくれた方が、気持ちの落としどころが早いような気がします」といったコメントがあがっている。また、「朝の会・帰りの会や親が参加する時は、親任せなのが気になります」などの声も一部に聞かれた。				

11. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	94	6	2	3
「あなたは、職員がお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれていると思いますか」との質問に、94名(90%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に6名(6%)、「いいえ」には2名(2%)の回答があった「親も気づけないような子どもの心の動きを受け止めて導いてくださってます」「継続して成長とともに対応してもらっています」といったコメントがあがっている。また、「恐らく性格的なものだと思いますが、子どもに対しての物言いがきつい先生がいる」「もう少し笑顔があると良いなと思います」などの声も聞かれた。				
12. 子どものプライバシーは守られているか	90	9	2	4
「お子さんやご家族のプライバシー(他の人に見られたくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこと)を職員は守ってくれていると思いますか」との質問に、90名(86%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に9名(9%)、「いいえ」には2名(2%)の回答があった。「プライバシー面では気にしたことはありませんが、公開療育の際などとても細やかに対応されていた」といったコメントがあった。また、「個人面接の場面で他の方たちが大勢いる中で行うので、プライバシーに気遣いいただきたいです」などの声も聞かれた。				
13. 個別の計画作成時に、子どもや家族の状況や要望を聞かれているか	91	11	1	2
「お子さんの支援に関する計画を作成したり見直しをする際に、塩浜CoCoはお子さんやご家族の状況や要望を聞いてくれますか」との質問に、91名(87%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に11名(10%)、「いいえ」には1名の回答があった。コメントは少なく、「勉強時間の内容について要望を年末に伝えたとこ、年明けに改善してくれました」「こちらの予測できない細かいことに気づいてアドバイスいただきます」といったコメントがあがっている。				
14. サービス内容や計画に関する職員の説明はわかりやすいか	94	8	1	2
「お子さんの計画やサービス内容など、塩浜CoCoでの生活についての説明は、わかりやすいと思いますか」との質問に、94名(90%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に8名(8%)、「いいえ」には1名の回答があった。コメントは少なく、「面談以外で先生とお話する機会はほとんどありません」「説明や面談の回数は少ない」「説明不足を感じます」といったコメントがあがっている。				
15. 利用者の不満や要望は対応されているか	79	14	2	10
「あなたが不満に思ったことや要望を伝えるとき、職員は、きちんと対応してくれていると思いますか」との質問に、79名(75%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に14名(13%)、「いいえ」は2名(2%)の回答があった。「要望に対して積極的に対応してくださっています」「担任の先生以外に伝言をしてもきちんと伝達してくれて、後日担任の先生から回答があり、とても信頼できました」といったコメントがあがった。また、「お話は聞いてくれますが、(すみません、対応できなくて)と言われます」などの声も聞かれた。				
16. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	64	12	12	17
「あなたが困ったときに、職員以外の人(役所や第三者委員など)にも相談できることをわかりやすく伝えてくれましたか」との質問に、64名(61%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」「いいえ」にはともに12名(12%)の回答があった。コメントは少なく、「親が知らない情報が多く、適切なお手配への手がかりになります」「知らなかった」といったコメントがあがっている。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
カテゴリ1		
1	リーダーシップと意思決定	
サブカテゴリ1(1-1)		
事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当
評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○ 非該当
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○ 非該当
カテゴリ1の講評		
<p>理念『一人ひとりを大切に』を基本に指定管理者として児童発達支援事業を推進している</p> <p>江東区こども発達センター(以下、センター)は、1993年区の委託事業として開園され、通園事業と相談事業を開始した。2012年児童福祉法改正に伴い児童発達支援事業となり、2014年保育所等訪問支援事業と特定・障害児相談支援事業を新設し、児童発達支援センター事業に展開した。センターはNPO法人こどもの発達療育研究所の理念『一人ひとりを大切に』を基に、運営方針「心身の発達に障害や遅れを持つ子ども達の権利を保障し、発達支援、家族支援、地域支援を実践する」を掲げ、区の指定管理者として児童発達支援事業を推進している。</p> <p>通園クラス単位に責任者を配置し「クラスは独自性を持って運営する」を基本にしている</p> <p>年度初めの法人職員を対象とした研修会では、法人の理念や基本方針の説明に加えて、理事会、運営委員会、子ども発達センターの各事業の運営の基本について説明がある。児童発達支援事業は、低年齢児グループ(G)1クラス、幼児G一日支援コース2クラス・半日支援コース1クラスの計4クラスからなり、管理者(以下、園長)は、クラス毎の職員配置と10の委員会の担当を前年度末に職員に周知している。センターの4つの事業単位にリーダーを置き、クラス毎に責任者を配置し、「各クラスは独自性を持ち、運営を行っていく」を基本にしている。</p> <p>事業運営に関わる案件は運営会議で、現場の運営案件はクラスや委員会で決めている</p> <p>事業運営に関わる重要事項は、園長と主任で構成される法人の運営会議で検討している。現場の運用に関わる区や保護者からの案件は、職員一人ひとりの意見をクラスや委員会などの関係部署でまとめ、話し合いを持ち、管理に報告し了解を得て対応する。決まった事は、全職員に周知するため朝礼終礼で伝えると共に、クラス毎の児童数、活動内容、見学・訪問の有無等の記録を日誌として残している。保護者には、保護者会で「センター事業の報告、お泊り会・運動会・遠足・公開療育等通園クラスの年間行事、翌年度の事業」について資料で説明している。</p>		

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリー2の講評

利用者アンケート、職員面談、経営状況の月例報告から各センターで課題を把握している

利用者の意向は、毎年利用者アンケートで事業運営の満足度と個別支援計画について聞く他、日常的な要望は申請書をクラスに常備して対応している。職員の意向は、業務に関する自己目標(自分は今後どうしたいか)・希望調査(今年度の目標、研修計画)を個別面談により収集し、地域の福祉ニーズは、自立支援協議会、保健相談所連携会議、地域療育連絡会議等で入手している。センターの経営状況は、法人の理事会が区に提出する月例報告等の情報を基に課題を把握して対策を検討し、センターに限定された課題は所内で対応している。

新たな相談や待機児童が減らない為、センター在籍数を174人から300人に増加した

区の障害福祉計画及び障害児福祉計画(第1期平成30年度～32年度)をセンターの中期計画と位置付け、法人の運営委員会が中期計画に沿って方針を決め、センターは法人の方針に沿って前年度の事業報告と区の計画を基に、事業計画を作成している。昨年度までは、児童発達支援事業で対応できない児童を相談事業で受けていたが、毎年新たに相談に来る件数と待機児童が減らないため、今年度は通園頻度の少ない園児を児童発達支援センター事業で受け入れ、事業運営目標として、総在籍人数を174人から300人に増やす計画を立て、事業を推進している。

月末報告会では、各事業の月毎実績報告、クラス及び事業の現状と課題等の報告がある

センターは、「4つの事業の連携を図る(実績の理解、事業内容の状況と課題)」を目的に、月末報告会で事業の進捗管理をしている。報告会の内容は、各事業の月毎実績報告、クラス及び事業の現状、抱えている課題で構成され、報告のための集計表の作成・管理・記入等の業務分担についても担当者を決めている。事業の月毎実績は区に報告すると共に、終礼での報告の際は、各部署にコメントをもらい課題を共有するようにしているが、事業の進捗管理に対して職員の関心は薄いので、センター事業についても管理指標を明示する等周知の工夫が期待される。

カテゴリー3

3 経営における社会的責任

サブカテゴリー1(3-1)

社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況

2/2

評価項目1

社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる

評点(〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○ 非該当

サブカテゴリー2(3-2)

利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況

4/4

評価項目1

利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○ 非該当

評価項目2

虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○ 非該当

サブカテゴリ3(3-3)

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

5/5

評価項目1

透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

評点(〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○ 非該当

評価項目2

地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○ 非該当

カテゴリ3の講評

センターは、法人の事業運営の基本方針である「倫理綱領および行動規範」を掲げている

センターは、法人の年度初めに「倫理綱領および行動規範は、法人職員がとるべき判断と行動を示した基本的な指標であり、日々確認するものである」とした、事業運営の基本方針の研修を行っている。加えて、事業計画の倫理綱領では、①利用者の人権を尊重して権利擁護に努める②支援者として己の行動や態度を謙虚に振り返る等、6項目を掲げ、行動規範では、①言葉・態度・服装②権利擁護③虐待防止④苦情解決⑤個人情報保護⑥専門的役割⑦職員間の連携、について各項目の具体的な行動を示して、職員が倫理綱領および行動規範を守る事に取り組んでいる。

要保護委員会が親の虐待発見・予防、施設内は自己チェックで虐待防止に取り組んでいる

苦情については、「利用者からの苦情解決の取り組みに関する実施要綱」に沿い、苦情解決責任者・受付責任者、第三者委員を明らかにすると共に、センターの入り口に「あなたの声」ボックスを設けて意見・苦情を吸い上げている。虐待については、要保護委員会が「親の虐待を発見し通報体制を確認する。施設内虐待はセルフチェックリストを使用し日々の振り返り及びグループディスカッション(GD)を行う」に取り組んでいる。GDの結果、「今日の朝の挨拶や送り迎えは笑顔で出来ましたか」等、4つの自己チェック項目を追加して虐待防止に努めている。

センターは、「保護者支援、地域連携」を柱にした地域との交流に取り組んでいる

センターは、利用者と家族が地域で安心して暮らせる基盤づくりを目指して、保護者支援では、保護者の療育参加・クラス懇談会の開催・保護者面接を行い、地域連携では、①卒園後の移行支援②地域の子供と触れ合う交流保育③見学希望者・実習生の受け入れ④地域に向けた祭り活動⑤区主催の乳幼児親子の支援を目的とする「子育てメッセ」に参加している。また、地域療育連絡会、自立支援協議会の主要メンバーとして、地域支援事業の一環で近隣の保育園・幼稚園の先生を集めての研修会、社協のファミリーサポート育成事業への協力等にも取り組んでいる。

4 カテゴリー4		
リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(○○○○●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
○あり ●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(○○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>ヒヤリハットは内容を分析し事故報告を行っているが、発生の原因分析が期待される。</p> <p>安全管理については、①非常災害対策計画及び避難訓練②事故防止・防犯対策③リスクマネジメントシステムの構築に努めると共に、予測されるリスク対応にマニュアルを作成し、事故防止に取り組んでいる。ヒヤリハットを集計し内容を分析し、事故については対応と結果の報告を行っているが、発生の原因分析が弱く、今後の対応では再発防止策を明確にする事が期待される。災害時の対応については、危機管理対応マニュアル等を整備し、職員・利用者・保護者の行動計画を策定しているが、センター事業の事業継続計画(BCP)についても策定が期待される。</p> <p>総在籍人数を大幅に増やした為、関連情報も増大しており情報管理の改善を期待したい</p> <p>紙ベースの資料は、種類毎にファイリングして保管棚に保管している。電子データはPC、USBに格納し、個人情報管理委員会が、PC管理表で全PCについて、USB管理表で、全USBの持ち出し・返却等の管理を行っている。個人情報は、個人情報保護のための規程類を整備し、情報管理の責任者・安全措置の概要等を定めている。一方で、在籍利用者数を大幅に増やしたため関連情報も飛躍的に増え、PC・USB個体管理は安全性の危険と工数も掛かる事から、PCをネットワークでつなぎ、共有サーバーで情報管理を行うシステムの改善を期待したい。</p>		

カテゴリ-5

5 職員と組織の能力向上

サブカテゴリ-1(5-1)

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の標準項目実施状況

9/12

評価項目1

事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している

評点(●●)

評価	標準項目	
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3

事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目4

職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる

評点(〇〇〇●)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当

組織力の向上に取り組んでいる	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	3/3
----------------	------------------	-----

評価項目1
組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○ 非該当

カテゴリ-5の講評

人材は、作業療法士・言語療法士・社会福祉士等の専門職員に重点を置いて採用している

法人は、大学又は大学院の発達心理学を専門とする機関に対して研修生の募集を行い、原則一年間の研修機関を設けている。また、医療技術の専門学校に対しても情報提供を行い専門職員の確保に備えると共に、福祉の職員募集サイト、ハローワークでも募集を行っている。採用は、作業療法士・言語療法士・社会福祉士等の専門職員の確保を中心に、現場実習、筆記試験、面接を行い、個性・キャリアをみて配属を決めている。新採用職員については、発達等の心理学知識・障害の理解・指導技術について研修を行い、必要に応じて経験者との協力体制を採っている。

職員の自主性を大切にし、研修・研究会・公開療育を通して人材育成に取り組んでいる

園長は、「仕事を通して学ぶ機会がある、自分自身が成長する」を基本に、自立した職員になる事を期待し、意識してキャリアパスや求める人材像を明確にしている。研修には力を入れており、上級救命講習等の費用を全額支給する研修と一部分を補助する自主研修等、全職員の研修受講履歴を記録すると共に、研究会・公開療育を通して質の確保を目指している。指導を担当する職員には、「役割を持たせる、仕事を任せる、クラスの意見をまとめてもらう」等を通してリーダーの育成に取り組んでいるが、その方針について職員との相互理解が期待される。

業務量の増加によりストレスを抱えている職員が多く業務改善等の取り組みが期待される

職員の評価は、定期昇級に加えて前年度の勤務評価によりプラスアルファがなされている。新年度の辞令交付の際の面接では、評価結果に加えて期待していることを話し、本人の振り返りと希望を聞いている。職員は、在籍児童数の大幅な増加により、必要な書類が多くなる、休憩時間が取れない等、仕事にやりがいを感じつつも、業務遂行にかなりのストレスを抱えている人が多い。経営層も多忙を極めているが、職員の離職を少なくし、クラス単位でチーム力が発揮出来るように、業務改善・就業状況の把握等を通して、現場との意思疎通を深める事が期待される。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

「児童発達支援センター事業の充実」

P: 児童発達支援センター事業では、常に待機児があり、新たなニーズに対応するため、「①保護者の希望を聞きながら出来るだけ多くの利用者が支援を受けられるように努める②待機児が毎年出ているので、待機児への対応に努める③個別支援計画の配布を支援開始と同時に「行う」を目標に、総在籍児童数を174名とした。

D: クラスの利用定員、利用上限を維持しながら新たなニーズに対応する為に、途中退園者が見込まれた時は最速で次の入園児を決め、待機児解消に努めた。通園開始時に個別支援計画の配布を行った。

C: 年間を通しての在籍児童数はクラスの定員一杯で、職員は、公開療育を通して発達段階の正しい理解と対応が取れるようになり、10月には182名になり目標は達成した。待機児童についても3月の年度替えて通園の見通しがついた。前期個別支援計画は、通園児全員に初回指導時に配布でき、後期個別支援計画についても、療育支援ニーズ調査を基に計画通り配布できた。

A: 児童発達支援サービスを希望する利用者は増えており、待機児童も増加しているため、翌年度は、在籍児童数を300名前後に増やす計画にしている。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

理由: 事業計画「施設運営の改善」で、「児童発達支援センター事業の充実」を課題として上げ、目標を設定して取り組んだ。取り組み結果の検証は行われていたが、取り組みの内容に対する妥当性についても検証すると、更なる課題解決の効果が期待できる。検証結果により翌年度の事業計画では、更に在籍児童数を増やす計画としている。

目標達成の状況: 総在籍児童数174名に対して上回る児童数を達成している。

副次的な効果: 個別支援計画の作成の際、改良した「療育支援ニーズ(要望)調査」を保護者に記入してもらい、これを基に支援計画が作成できるように職員の研修を行っている。支援計画が早く出来る事で保護者の理解が深まった。一方で、児童数の増加により職員の業務量が増え、仕事にやりがいを感じつつも、業務遂行にかなりのストレスを抱えている。

特筆すべき点: 前期個別支援計画は初回指導時に配布後、通園状態を保護者と確認しながら必要な修正を行っている。後期支援計画配布後には、「①職員のお子さんへの評価は十分ですか②保護者のニーズ(要望)の反映は十分ですか」等、7項目の保護者アンケートを収集し、職員の育成も併せて、支援サービスの一定水準を維持出来ている。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

「医療的ケア児対応の充実」

P: 医療的ケア児(気管切開、胃ろう、注入)や肢体不自由児等の利用者、要保護児童・要支援家庭が増え時代変化に合った対応が求められるとして、「医療的ケアへの配慮を含めて障害状況に合わせた支援を行い、安心した社会生活を営めるように努力する」を目標に、医療的ケア児対応に取り組んだ。

D: 医療的ケアや肢体不自由については、摂食や姿勢援助等の専門研修会への職員派遣と所内伝達研修で質の向上を図ると共に、嘱託医からのスーパービジョンを行った。看護師によるバイタルチェックを欠かさず、気管切開を持つ児に対しては、保護者付き添いを依頼した。要保護児童については、区や子ども家庭センター等の関係機関と連携を図り対応に努めた。

C: 4歳児の気管切開をしている重症心身障害児は、看護師を控えさせて低年齢児グループへの通園ができ、5歳児の気管切開を持つ児は、保護者の園内待機で一日通園クラスに週3日の通園が可能になった。

A: 医療的ケア児の受け入れは、保護者の協力の元で進めているが、児童部会では多様な多くの医療的ケア児が増えていく事が報告されており、受け入れ体制の強化を検討する必要があるとしている。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

理由: 児童発達支援センター事業の課題の一つに「医療的ケア児等への対応」があり、目標を設定して取り組んだ。目標が定性的なため、達成度合い、取り組み内容の妥当性、有効性の検証が難しくなっている。取り組み結果の検証は行われていたが、翌年度の事業計画等への反映はなされていない。

目標達成の状況: 目標が定性的に過ぎるので達成できたかは判断が難しくなっている。

副次的効果: 利用者は通園が実現した事で、活発になり表情が変わり、その上発達段階が維持されるようになった。在宅で暮らすより通園で他の児童という事で刺激が生まれ、保護者も同じような思いを抱えている親がいると分かり安心感を覚えている。

特筆すべき事項: 事業計画の「施設運営の改善」項目で、「現状と改善点の検討」を取り上げており、29年度事業報告で取り組み結果の報告があるが、結果報告に止まり考察がないため、取り組み内容の妥当性が分からず、検証結果が30年度の事業計画(活動)に十分に反映されていないため、31年度はPDCAサイクルを意識して回す事が期待される。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目		
サブカテゴリー1			
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		○ 非該当
サブカテゴリー1の講評			
<p>区の「江東暮らしガイド」や「子育てハンドブック」等で幅広く情報提供している</p> <p>センターは、児童館や授産センターと共に江東区塩浜福祉プラザ内にあり、年1回の「塩浜プラザ祭り」を通して地域住民とふれあう機会を持っている。訪れる見学者も多く、療育の流れや活動内容、利用日数、時間等を記載したパンフレットを配布して事業情報を提供している。また、江東区のホームページや「江東暮らしだより」「子育てハンドブック」等の区の情報資料を通して事業所の役割や活動内容を広報している。事業所ホームページは内容の充実とタイムリーな更新を目指して外部委託することとし、今年度末にはリニューアルする予定になっている。</p> <p>保健相談所や子ども家庭支援センター、自立支援協議会等関係機関へも情報提供している</p> <p>センターは区の指定管理事業の委託を受けており、区障害福祉課には毎年今年度の事業計画書と昨年度の事業報告書を提出して、施設の運営方針や目標、実績について詳細に報告している。また、区内の保健相談所と、引き継ぎケースや見学対応について常に連絡を取りあっており、児童館との交流や子ども家庭支援センターとの連絡会に参加し、関係機関へ事業所情報を提供している。さらに園長は、自立支援協議会の児童部門で保護者向けに講演する等、地域の育児や家庭支援事業にも積極的に関わり、発達支援センターとしての事業所情報を幅広く発信している。</p> <p>問い合わせや見学希望は相談部が受け付け、予約調整後面談の上個別に対応している</p> <p>センターは、障害児童相談事業も併せて展開しており、区のホームページや「子育てハンドブック」を見た保護者からの問い合わせや相談、見学希望を毎年、多数受け付けている。見学希望はまず相談部で受け付け、パンフレットを送付したり予約を調整して面談し、保護者の要望や発達課題等、個々の抱える状況に応じてきめ細かく対応している。年々相談件数は増加傾向にあり、軽度の発達障害を心配する相談や医療的ケアを必要とするケースが増えてきており、できるだけそれぞれにふさわしいサービスへつなげようと、他機関の関連情報も併せて提供している。</p>			
サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	7/7
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の同意を得るようにしている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している		○ 非該当

評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○ 非該当

サブカテゴリー2の講評

保護者の意向は親子面談で、子どもの意向は行動観察から読み取って支援に活かしている
 サービス開始時には保護者に重要事項説明書を配布し、支援の体制やサービス提供の基本的なルールと費用について説明し、同意を得て契約書を取り交わしている。契約書等は読み易い大きさの文字にし、平易な表現で要点をホワイトボードに書き出すなどしてわかりやすい説明に努めている。センター独自の「療育支援ニーズ調査」表を作成し、保護者に記載してもらい、個々の生活の様子や発達課題を知るアセスメント情報としてニーズ調査を基に利用前の親子面談で確認し、子どもの行動観察・個別検査からその意向をくみ取って個別支援計画に反映させている。

利用前の生活状況を細やかに聴き取って支援の共通項とし開始時の不安軽減に努めている
 低年齢児グループは年間を通して親子参加の形をとっているが、年度初めには、必要に応じて幼児コースでも保護者に療育に入ってもらい、支援の実際を知る機会を設けている。支援の狙いや支援過程を保護者と共有することで、子どもと保護者の不安の解消を図っている。ニーズ調査でサービス利用前のそれぞれの生活習慣やコミュニケーションの取り方(「目で見て」伝えるのか「手を引いて」要求するのか「指さし」なのか等)を細やかに聴き取り、それを踏まえた支援を行っており、できるだけ早くグループに馴染むことができるように努めている。

サービス終了時には支援の留意点や今後の課題をまとめ、移行先に報告書を交付している
 サービス終了時には保護者の同意を得て、次の移行先に交付する支援報告書を作成している。特別支援学校や学級に入学する前には必ず、進級先の学校や学級との引き継ぎ会議を開催し、必要に応じて進級後の学校訪問や保護者の相談に応じ、支援の継続性確保に努めている。支援報告書には、生活面・運動面・集団参加の様子(言葉の理解や社会性、対人行動の特徴等)を詳細に報告し、次の成長の手がかりとなるようにしている。一般の小学校へも保護者からの要望があれば、センターでの支援方法と留意点、今後の支援課題を報告し、進学指導に協力している。

サブカテゴリー3

3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	11/11
---	-----------------	-------------------	-------

評価項目1 定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子ども一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○ 非該当

評価項目2

子どもや保護者の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している

評点(0000)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 計画は、子どもや保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 計画を子どもや保護者にわかりやすく説明し、同意を得ている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している	○ 非該当

評価項目3

子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(00)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○ 非該当

評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(00)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○ 非該当

サブカテゴリ3の講評

独自の「療育支援ニーズ調査」で、一人ひとりの詳細なアセスメント情報を収集している

センターでは、独自に「療育支援ニーズ調査(以下、ニーズ調査)」を実施し、保護者から子どもの心身と生活の状況を聴き取り、支援課題の抽出に反映させている。ニーズ調査は、低年齢グループ・1日支援コース、半日支援コースの3つに分けて行い、食事・排泄・運動・手指作業・言語・情緒・集団・遊び等、細かく分析項目を立てて、子どもの現況を詳細に記述してもらって、支援計画作成との連動性を高める工夫をしている。

保護者や子どもの意向を踏まえた個別支援計画を作成し半年毎に評価、見直しをしている

ニーズ調査の中で、保護者が◎を付けた項目に焦点をあてて、個別支援計画にその意向を反映させるようにしている。こどもの意向は、行動観察とニーズ調査とともに個別発達検査を実施して発達段階を把握し個別支援目標を設定している。支援計画の見直しは半年毎に行い、前期のニーズ調査に変化の状況を赤で追記したモニタリング情報を後期の出発点とし、担当者を中心にケース会議で前期の評価と次の支援計画を検討している。そのうえで保護者と面談し、家庭やセンター外での成長過程と一緒に振り返り、保護者の同意を得て次の支援計画を確定している。

朝礼・終礼で、保護者支援、健康・危機管理情報を伝達しタイムリーな支援に努めている

日々の活動の様子は、クラス日誌や指導記録(集団指導・言語指導・認知学習指導等)に、個別支援計画との連動性を意識して、詳細に記録されている。記録には必ず療育の狙いを上げ、どの場面でのどのような反応があったか、子どもの状態変化や発達課題に着眼し、一人ひとりの活動の様子を具体的に記載している。また、家庭との相互連絡とその日の活動状況は「生活ノート」を使って報告している。さらに、全職員の朝礼・終礼では、共有化すべき保護者支援、健康・危機管理情報等を伝達し、常にタイムリーな状況を把握して支援できるように努めている。

サブカテゴリー5		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(○○○)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和りとりする必要が生じた場合には、子どもや保護者の同意を得るようにしている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 日常の支援の中で、子どものプライバシーに配慮した支援を行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている		○ 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している		評点(○○○)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(子どもが「ノー」と言える機会を設けている)		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 施設内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している		○ 非該当
サブカテゴリー5の講評			
<p>個人情報の取り扱いには明確な規定を定め、日常業務に於いても情報保護に努めている</p> <p>センターでは、法人策定の個人情報管理マニュアルを活用し、管理規定に則って、情報の収集目的を明文化することや利用範囲を定め、安全管理の徹底を図るために職員研修を定期的実施している。外部と情報のやり取りをする場合には、必ず事前に保護者に説明し、同意・署名を得るようにしている。日常支援に於いても、例えば、廊下の掲示物に個人を特定させる情報を出さないようにしたり、職員間で子どもの情報を共有する際の閲覧ファイルを外から見えないものにするなど、情報の取り扱いに配慮し、プライバシーの保護に努めている。</p> <p>保護者との相談場面におけるプライバシー確保は、改善すべき課題であると認識している</p> <p>基本的に子どもが「ノー」といった場合には無理強いせずその意思を尊重する方針で支援に当たっている。しかし、「ノー」という拒否の背景にある個々の発達課題を的確に把握して、必要であれば再度促したり、時間を置いたり、落ち着いてから別の方法で取り組ませる等、専門性の高い支援の仕方を工夫している。また、保護者との面談室がクラスから離れた場所にあり、時間調整が難しい等の理由で、廊下やクラスの隅等、他の保護者の耳に入る距離で連絡事項のやり取りや相談面接を行わざるを得ないことがあり、改善課題と認識し対応を模索している。</p> <p>外国籍の子どもも受け入れ、文化や生活習慣の違いを踏まえた柔軟な対応に努めている</p> <p>外国籍の子どもや保護者も増えてきており、多様な価値観、文化や生活習慣の違いを職員サイドが十分に理解するよう努めている。文化的背景から一部食材への制約を持つ子どもへの給食の提供や行事への参加ができないことも起きているが、一律の対応をせず、できるだけ代替方法を検討し、柔軟な取り組みを工夫している。職員だけでは対応しきれない言語圏の保護者には、言葉のわかる他の保護者の協力を得て、連絡事項を伝えるなど、コミュニケーションに行き違いが生じないように努めている。</p>			
サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(○○●)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを定期的に点検・見直しをしている		○ 非該当
○ あり ● なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		○ 非該当

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映している	○ 非該当

サブカテゴリ-6の講評

通園業務の各種マニュアルを作成し、サービス提供の基本的な手順を示している

センターでは、法人の「一人ひとりを大切に」という理念を掲げ、個人情報の取り扱いや虐待防止、権利擁護に関するマニュアルを作成し、サービスの基本的事項を明確に示している。入社時には法人職員としての倫理綱領と行動規範をマナー研修として実施し、対人援助職としての自覚を促している。又、通園事業に関するマニュアルを作成し、感染症対応や緊急時対応等、健康管理や事故対応の基本的な手順を定め、業務の標準化を図っている。一方、支援計画作成やプログラム等のマニュアルは存在するが、日常的に十分活用できていないという職員の声も多い。

通園児の増大に伴い、支援マニュアル全般を見直す必要があることを認識している

センターは、原則として制度変更時にはサービスの基本事項の点検を行い、マニュアルや療育プログラムを見直している。ケース会議では、クラスリーダーを中心に振り返りや改善点の検討をし、職員間で共有化を図っている。しかし、今年度は通園児枠を大幅に拡大したため業務量も増大しており、職員からは状況変化に伴う日常業務や係の手引書が欲しいとの声が上がっている。在籍数の増大に合わせた業務改善に伴う支援マニュアルの改訂が期待される。

「公開療育」や保護者アンケートを実施し、常により良い支援の在り方を模索している

センターとしての基本的な理念や療育プログラムは明示しているものの、『療育に定型はなく、常に最善のアプローチとはなにか、試行錯誤している』との現状認識で、基本を大切にしながらも新しい知見を学ぶ場として毎年「公開療育」を実施している。今年度は「情動発達」をテーマに療育を公開し、教材見学・職員による「身体交流」等の実践報告・外部講師による講演&意見交換を通して専門性の向上を図り、よりよい療育を模索している。また、利用者アンケートを実施し、保護者からの苦情・要望をサービスの質の向上につなげようとしている。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
		26/26	
1 評価項目1 個別の支援計画に基づいて子ども一人ひとりの発達の状態に応じた支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 個別の支援計画に基づいた支援を行っている	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 子どもの特性に応じて、コミュニケーションのとり方を工夫している	○ 非該当	
● あり ○ なし	3. 関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって、支援を行っている	○ 非該当	
評価項目1の講評			
<p>計画では集団指導、個別指導、生活場面で具体的な支援目標を設定し支援している</p> <p>センターでは年度初め(利用開始前)に、保護者がセンター独自の「療育支援ニーズ(要望)調査」(生活面、発達面、配慮事項等への要望と食事、排せつ、着脱、健康、運動、手指作業・構成・弁別、言語理解・概念、言語表出、対人コミュニケーション、行動、集団活動等200以上の項目の調査表)に記入したものを基にアセスメントを行い個別支援計画を作成している。計画では集団指導、個別指導、生活場面で具体的な支援目標を設定し、評価にあたっては、保護者にもニーズ調査表で半年後の子どもの状態を再度加筆してもらい計画を見直している。</p> <p>子どもの特性に応じて言葉だけではなく行動からも意図を読み取ることを大切にしている</p> <p>職員は子どもの状態を把握し特性に応じて言葉だけではなく行動からも意図を読み取ることを大切に療育に関わっている。対人緊張があり初めての人が苦手な子どもに対しては、初めは保護者と一緒に少しずつ緊張がほぐれるよう個別に対応している。又、子どもの「相手を叩く」といった行為にも必ず理由があり、職員は「何で叩いたのか」「どうしてそのような行動をしたのか」を丁寧に聴き取ると共に、対人交流のツールの一つである身体コミュニケーション(身体のふれあい、だっこ等)を通して子どもの心に向き合い受け止めることに努めている。</p> <p>子ども達が通う予定の保育園・幼稚園、小学校等へのスムーズな移行を支援している</p> <p>保育所等訪問支援事業では保護者の希望を受け保育園等に通園している子どもが集団生活に適応できるよう職員が保育所等を訪問し連携している。年度末には保護者の希望に応じて移行支援報告書を作成し、子どもが通う予定の保育園・幼稚園、小学校等に届けている。又、特別支援学校や特別支援学級・教室に通う子どもの場合は移行支援会議を開催し引継ぎを行っている。移行支援会議は4月以降に開催されているため、センターとしてはできるだけ早期に開催し、移行先となる他機関に子どもへの関わり方を引継ぎ、スムーズな移行を支援したいと考えている。</p>			
2 評価項目2 子どもが食事を楽しめるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 食事時間が楽しいひとときとなるよう環境を整えている	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 子どもの状態やペースに合った食事となるよう、必要な支援(見守り、声かけ、食の形態や用具の工夫等)を行っている	○ 非該当	
● あり ○ なし	3. 子どもが安全に食事をとれるよう取り組みを行っている	○ 非該当	
● あり ○ なし	4. 食物アレルギーや疾患等については、医師の指示に従い、対応している	○ 非該当	
● あり ○ なし	5. 食についての関心を深めるための取り組みを行っている	○ 非該当	
● あり ○ なし	6. 子どもの状況をふまえ家庭での食事について助言を行っている	○ 非該当	

評価項目2の講評

歌や声掛け等で子ども自身が午前の活動から食事に場面転換できるよう働きかけている
 給食は福祉プラザの給食センターで作られ、低年齢児グループと幼児グループの一日支援コース、半日支援コースの午前グループに提供している。給食時間になると子ども達は自分の手拭きやカップ等を用意して席に着き、職員は「おーい、給食だよー」と言いながら当番の子どもと一緒に給食ワゴンを運んで来る。職員は献立を説明し「おいしそうだね」と言葉かけをしながら一人ずつ名前を呼んで確認し配膳している。全員で給食の歌を歌い最後に「手をパッチンいただきます」を言って子ども自身が午前の活動から食事に場面転換できるよう働きかけている。

偏食については「一度、口に入れてみよう」等と子どもが挑戦できるよう支援している
 給食では安全面から子ども2人に対し職員を1名配置し、医療的ケア児(吸引等が必要)の食事介助は保護者が対応している。子どもの食事への拘りや食べ方(箸、フォーク等)、嚥下に関する情報を事前に把握して対応し、偏食については「一度、口に入れてみよう」、果物を目の前でつぶし「〇〇のジュースだよ」と子どもが挑戦できるよう支援している。又、ノロウイルス対策として看護師が保健日より研修で周知し、消毒用物品セットを各クラス、トイレ、遊戯室に設置している。昨年度は食物アレルギー対応として職員全員がエビ研研修を受講している。

家庭での食事や歯磨きの状況を聞き取り、歯科の嘱託医による摂食指導等も行っている
 センターでは保護者からのニーズ調査(配慮事項欄)と配慮事項申請書類で子どもの食形態・内容、アレルギーの有無などを把握し、入園前健康診断等で嚥下やアレルギー対応について嘱託医から指示を得ている。アレルギーに対する除去・代替え食やおかゆは福祉プラザ内の給食センターで対応し、食形態(ミキサー、刻み等)は職員が対応している。歯科の嘱託医は歯科検診(年4回)を実施すると共に、保護者や職員を対象に研修会も行っている。家庭での食事や歯磨きの状況を保護者アンケートで聞き取り、摂食指導や保護者からの質問等にも対応している。

3 評価項目3

子ども一人ひとりの状況に応じて生活上に必要な支援を行っている

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 身の回りのことは自分でできるよう、必要な支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 基本的な生活習慣や社会生活上のルール等(あいさつ、マナー、交通ルール等)を身につけられるよう支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 集団活動を取り入れるなど、子どもの心身の発達や社会性が育つよう支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 一人ひとりの有する能力を活かせるよう個別のプログラムを実施している	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 送迎は、子どもと保護者等の状況に応じて送迎方法を検討し、行っている	○ 非該当

評価項目3の講評

「おはよう」や「いただきます」など基本的な生活習慣等が身につくよう支援している
 職員は登園してくる子ども一人ひとりに「〇〇君おはよう」と名前を呼んで迎え、着替えを促している。子どもは出席のシールを貼り、トレーニングウェア(上下)に着替え、タオル等を自分のフックに掛け終わると促されて椅子に座る。職員ははじまりの歌を歌い子ども達が席に着くと「手はお膝」と声をかける。次に自分の名前を呼ばれた子どもは拳手をしながら返事をし「お母さん、さようなら」と言って活動が始まる。朝、給食、帰りの場面でそれぞれの歌を歌い「手をパッチン、いただきます」等と日々繰り返し基本的な生活習慣等の習得を支援している。

多様な集団活動やセンター独自の教材を使って個別に言語・認知学習指導を実践している
 センターでは個別支援計画に沿って集団活動、個別プログラム、生活場面それぞれに長期目標(12か月)、短期目標(6か月)を立てて指導している。集まり・運動・設定遊び、身体交流・対人交流遊び等の多様な集団活動を通じて、子どもの発達段階に応じた認知、コミュニケーション、社会性などの個別のねらいを定め集団活動での場面を展開し指導している。また、個別もしくは少人数で行われる個別プログラムでは、線をなぞる手指作業や具体的な物と位置(上・下・そば)を表す言葉の理解などを独自の教材を使って言語・認知学習指導を実践している。

送迎は通園バスを利用する場合も基本的には保護者が同乗することとしている
 通園バス(1台)の利用については全員に希望(毎回利用、雨の日のみ等)を聞き取り希望者の送迎を行っている。送迎は通園バスを利用する場合も基本的には保護者が同乗することとしているが、各家庭状況によりファミリーサポートや移動支援の利用も認めている。移動支援等を利用している場合はセンターの入り口までの支援となり、登園後の着替えなどの支援は各クラスの職員が行っている。今年度は利用人数が急増したため、移動支援等を利用し保護者が送迎対応しない場合、子どもの家庭での状況把握が難しくなり今後の対応が課題となっている。

4 評価項目4 子どもの健康を維持するための支援を行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもの健康状態について、保護者や医療機関等から必要な情報を収集している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもの状態に応じた健康管理を行い、体調変化に速やかに対応できる体制を整えている	○ 非該当
評価項目4の講評		
<p>健診結果等を「園生活での健康管理上の問題点・確認事項」にまとめ把握している</p> <p>年度初めに主治医からの診断書や保護者から①健康上の注意する事項、②健康面で気になっていること、③治療中の病気、④使っている薬、⑤通院している医療機関、⑥予防接種の実施記録、⑦今までにかかった病気等を聞き取り、入園前健診結果や医師の意見を「園生活での健康管理上の問題点・確認事項」にまとめている。入園後は身体測定(年2回/身長、体重、頭囲、胸囲の他カウプ指数)と、各科の嘱託医による小児科健診(毎月)、整形外科健診(年4回)、歯科健診(年3回)を実施し、各専門医から食事や姿勢・バランス等に関する指示も受けている。</p> <p>発熱時や発作時の薬の服用や対応方法等を「健康カード」にまとめ朝礼時に確認している</p> <p>職員は登園時に家族からの聞き取った子どもの様子と生活ノート(家族連絡帳)の家族からの連絡欄(睡眠、排せつ、食事、検温、特記・連絡)に記載された内容を確認し、帰宅時にはセンターからの連絡欄に排せつ、食事、活動の様子等を記載し、相互に子どもの健康状態の把握に努めている。又、子どもの発熱時や発作時の薬の服用や対応方法等を「健康カード」にまとめ、職員は朝礼時に対応方法を確認している。体調の変化や怪我に対しては、個々の対応方法に沿って職員と看護師が連携して対応し、看護師は健康管理記録報告に記載し園長に報告している。</p> <p>インフルエンザやノロウイルス、食中毒等の発生時の対応策を定め職員研修も行っている</p> <p>感染症に対しては、発症した子どもの体調の速やかな回復と、周りへの感染拡大防止の観点から発症時と予防のための対応方法を定めている。また、インフルエンザやノロウイルス感染症、食中毒等の発生時の対応策を定め職員研修を行うなど感染拡大防止に取り組んでいる。与薬が必要な場合は与薬対応マニュアルに沿って「お薬連絡表」「緊急時のお薬連絡表」と発作時の薬や塗布薬、常用薬等を預かり看護師が対応している。医療的ケア児については主治医の診断書及び意見書に基づき通園援助体制を検討の上対応しているが、看護師の増員が必要と考えている。</p>		
5 評価項目5 子どもの主体性を尊重し、施設での生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 日常生活の支援は子どもの主体性を尊重して行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもの状況や希望に沿って、多様な体験ができるようにしている	○ 非該当
評価項目5の講評		
<p>子どもの意思を確認した上で、子ども達が挑戦していくことを目指し支援している</p> <p>センターでは子どもが主体的に物事に関われるように、年齢や発達段階に考慮しながら一人ひとりの目標を決めて支援している。子ども自身の発言や行動(ひっくり返る、噛みつく等)からその意図を読み取り、子どものやりたいことが異なる場合は、子ども自身の意思(〇〇をしたい)を尊重し対応できる範囲で支援方法を修正している。職員は療育の場面で子どもの意思を大切にしながら行動観察を行うと共に、子どもの思いを聞き意思を確認した上で、子ども自身の力で挑戦していくことを目指し、やるべきことができるように支援している。</p> <p>テーブル、教材、遊具等が廊下に置いてあり保護者からは置き場所の工夫を望む声もある</p> <p>センターの1階にはスタッフルームと低年齢児、1日支援コースの3歳児・4～5歳児の3クラスがあり、2階は半日支援コースのクラスと遊戯室、医務室、相談室が各1部屋ずつある。また、外遊びができる屋上や1階の外廊下を挟んで園庭がある。室内は子どもの年齢や発達段階を考慮し、子ども自身が活動に集中できるよう集団活動では部屋全体を使い、個人指導ではパーティションで区切る等の環境設定をしている。しかし、活動室が狭いこともあり、テーブル、椅子、教材、遊具等が廊下に置かれている場合もあり保護者からは置き場所の工夫を望む声もある。</p> <p>運動会、お泊り会、お別れ遠足等、子ども達が多様な経験が出来るよう努めている</p> <p>センターでは年間を通じて行事(誕生日会、クリスマス会、運動会、年長児お泊り会・お別れ遠足等)を企画し、子ども達が多様な経験が出来るよう努めている。一日支援コースに所属し地域の子ともと触れ合う機会の少ない子どもを中心に、地域の区立保育所と協力し月1回のペースで半年間継続的に交流をする機会を設け、子ども達が相互に訪問する一日交流保育を実施している。又、年長児お泊り会では事前の健康チェックで宿泊が出来ない子どもやお泊り会に対する保護者の心配ごとにも配慮し、日中活動のみの参加もできるように柔軟に対応し実施している。</p>		

6 評価項目6

家族との交流・連携を図り支援を行っている

評点(0000)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どものサービス提供時の様子や家庭での普段の様子を家族と情報交換し、支援に活かしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 家族の意見や要望を活かした支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 家族の状況に配慮し、相談対応や支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもや家族に合った療育方法等について助言している	○ 非該当

評価項目6の講評

「生活ノート」を使って家庭とセンターでの様子を相互に伝え情報交換している

登園日には「生活ノート」(家族連絡帳)で子どもの家庭とセンターでの様子を相互に伝え情報交換を行っている。又、各クラスで毎月「クラスだより」を作成し、保護者に翌月の活動とねらい、療育プログラム等を伝えている。定期的な個別面談に加え、1日支援コース(月1回)、低年齢児グループ・半日支援コース(年2～3回)クラス別懇談会、全体としては保護者会を各学期に行っている。療育参加(1日支援コース各期1回)、日曜療育参加(各クラス年2～3回)でセンターでの様子を見てもらったり、1日支援コースでは家庭訪問を6月に行っている。

受け入れ人数を増やしたため、一人ひとりの面談回数が減り対応方法を検討している

センターでは保護者に対して「療育支援ニーズ(要望)調査」(年2回)を行い、生活面、発達面、個別指導・面談、配慮事項、他機関との連携支援等に関する保護者の要望とその度合い(優先順位)、困りごと等を詳細に把握し、保護者との面談等で新たな要望等が出てきた場合は随時対応している。子どもの支援にあたっては保護者支援が重要と考え、保護者から申し入れがあれば電話での相談や直接面談をしている。今年度は待機児の解消のため受け入れ人数を174人から300人余りに増やしたため、一人ひとりの面談回数が減り対応方法を検討している。

就学後の生活について卒園児の親も交えて保護者同士のつながりの場を提供している

家族に対し個別面談で家庭状況の把握、育児不安や負担感の軽減、近い将来への見通しを持ち、子どもとの楽しい生活が実現するよう、保護者の話を聞き子どもへの関わり方などを伝え支援している。保護者が抱える日々の悩みや子どもの発達に対する不安や心配に加え、「食べてくれない」「痲癩をおこす」「公園でギャーギャー言いたして遊べない」など、我が子の怒りを受け止めきれず悩む保護者の「心の相談」も行っている。また、保護者会では就学相談説明会や就学後の生活の様子を語る会など卒園児の親も交えて保護者同士のつながりの場を提供している。

7 評価項目7

地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点(000)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 地域の情報を収集し、子どもの状況に応じて提供している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 必要に応じて、子どもが地域の資源を利用し、多様な体験や交流ができるよう支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 地域全体の在宅障害児や関係機関等を対象に、施設・設備や人材・プログラムを有効に活用した支援を実施している	○ 非該当

評価項目7の講評

保健所や子ども家庭支援センターの集まり、幼稚園の未就園児の会の情報を掲示している

保健所や子ども家庭支援センターの集まり、幼稚園の未就園児の会等の情報を掲示し必要な場合は勧めている。また、地域の保護者向けの講演会、子どもが参加できるイベント、遊びの教室等の情報を1階の廊下に掲示し、子どもと保護者が地域資源を利用できるよう伝えられている。毎年8月下旬に福祉プラザ全体で開催される「塩浜福祉プラザまつり」には積極的に参加し、在園児や卒園児だけではなく多くの地域の子とも達も一緒に参加できるボーリング等を催している。また、区の乳幼児の親子のための「こうとう子育てメッセ2018」にも参加し協力している。

関係機関への専門的支援の提供や指導方法を共有し、地域支援力の強化に努めている

センターでは「こども・家族は地域とつながり、地域の中で相互に貢献しあえるように支援する」を使命の一つに掲げ、重点目標を「年長児・緊急時の家庭支援の中で、機関訪問支援を実施し、地域連携に努める」としている。今年度は療育を必要とする子どもや保護者を一人でも多く受け入れることを目指し、待機者を減らすことに努めた。軽度の言葉の遅れ、対人関係、集団行動への問題や不安を抱える利用希望者が増大している中、地域の様々な機関への専門的支援の提供や指導方法を共有し地域支援力の強化や地域の支援ネットワークづくりに努めている。

保護者や地域の支援者の育成など地域全体の人的支援力の向上を目指している

社協主催の家庭連携支援ファミリーサポートの育成事業の研修の講師を園長が努め、地域の支援者となるファミリーサポートの育成に当たり、児童発達支援事業および区の相談事業に通う保護者を対象に、子どもの怒りを受け止め対応する支援技法をセッション形式で行うペアレントトレーニング(全10回)を実施している。法人では、公開療育という形で毎年テーマを決めて療育内容を関連機関等に公開し、療育参観、教材見学、実践報告などを行い、センターとしての支援に留まらず、保護者や地域の支援者の育成など地域全体の人的支援力向上を目指している。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	2-2-2	着実な計画の実行に取り組んでいる
タイトル①	通園児の総在籍人数を174人から300人に増やして待機児童の削減に取り組んでいる	
内容①	センターでは、通園の枠では対応できない児童を相談事業で受けていたが、毎年新たに250人ほどが早期発見・早期支援を希望して相談に来ており、待機児童が多い状態が続いていた。事業計画で児童発達支援センター事業の充実を目標に、少しでも多くの人に利用してもらう為に、保護者との話し合いで一人当たりの利用日数を減らし、その分を新たな児童に振り向ける。交流保育を勧め、他の保育園に週数日通ってもらう。医療的なケアだけで通園する日を作る等に取り組む、通園児の総在籍人数を174人から300人に増やして待機児童の削減に努めている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	3-2-2	虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている
タイトル②	要保護委員会が「親の虐待を発見する、園児の権利擁護に努める」の視点で活動している	
内容②	センターは、「虐待防止対応マニュアル」を整備すると共に、要保護委員会が「親の虐待を発見する、通園児の権利擁護に努める」の双方の視点で、年度課題①通報体制の確認②施設内虐待の防止に取り組んでいる。具体的には、発見と通報及び子どもの権利条約についての勉強会を行い、虐待防止のための職員セルフチェックリストを実施している。勉強会では、チェックリストに加えグループディスカッションを行い、日々の自己チェック4項目を提案すると共に、「日々の自己チェック項目をグループで作ってみよう」と提案し、現場の虐待防止につなげている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-2	子どもが食事を楽しめるよう支援を行っている
タイトル③	偏食については「一度、口に入れてみよう」と子どもが挑戦できるよう支援している	
内容③	職員は子ども達が席に着くと「ごはんのおはなし」(一皿ずつ献立を説明)をし、子どもの名前を呼び確認をしてトレーを配膳をしている。給食では安全面から子ども2人に対し職員を1名配置し、箸を使い始めた子どもには「〇〇ちゃんお箸で食べて。すごーい」と応援し、「今日は茄子入っているかな～？大根は？」と不安を訴える子どもの偏食に対し、職員は「一度、口に入れてみよう」「ジュースだと飲めるかな？」と嫌いという果物を子どもの目の前でつぶし「〇〇のジュースだよ」と子どもが挑戦できるよう支援に取り組んでいる。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	卒園児の移行支援、通園児の交流保育、専門性を活かした公開療育を毎年開催するなど地域連携強化に取り組んでいる
	内容	センターは、地域連携を目的に、①卒園児が就学後早い時期に円滑な指導を受けられるよう、報告書の提出や支援会議を設ける「移行支援」②通園児が地域の子ども達と触れ合う機会を設ける「交流保育」③塩浜プラザ祭り等の「地域の祭りへの参加」④乳幼児親子の支援を行う「子育てメッセへの参加」等に取り組んでいる。また、区内外の保育園・幼稚園・特別支援学校・保健相談所・児童デイサービス施設等に参加を呼び掛け、専門性を活かした公開療育を毎年開催し、「より良い発達支援に向けた療育実践を検討し、機関連携を深める」事にも取り組んでいる。
2	タイトル	子ども一人ひとりの発達課題を適切に把握するために、センター独自の「療育支援ニーズ調査」を実施し、個別支援計画にリンクさせている
	内容	センターでは利用者ニーズに応えようと、今年度は通園総在籍数を300人まで大幅に拡大している。その中で、支援課題を適切に把握し、通園初回利用時に個別支援計画が交付できる体制をつくるため、独自の「療育支援ニーズ調査」を実施している。生活状況や保護者の要望を項目毎に具体的、詳細に記録してもらうニーズ調査を、情報収集・分析・課題抽出というアセスメントプロセスに直結させ、効率的に支援計画へ反映させている。項目の吟味や記述方法の工夫で、正確に発達課題を捉え、保護者満足度の高い支援内容の個別計画が作成されている。
3	タイトル	言語・認知学習指導プログラムでの独自の教材や指導方法等で非常に専門性の高い療育を実践している
	内容	センターでは子どもの年齢に応じた集団療育プログラムや言語・認知学習指導プログラムなど専門性の高い療育を実践している。集団療育プログラムでは子どもの発達段階に応じた認知、コミュニケーション、社会性等の個別のねらいを定め身体交流活動に取り組み、言語・認知学習指導では独自の教材と指導方法を実践している。身体交流活動では、大人と子どもの身体交流、子ども同士のペアでの対人交流、集団あそびで、人との身体的・情動的交流を高めて、信頼関係や愛着関係を築くことを目的としている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	中堅職員に「役割を持たせる、仕事を任せる、クラスの意見をまとめてもらう」とするリーダー育成の効果を高める業務管理改革が期待される
	内容	園長は、法人の理事長業務と共に保育園・幼稚園の先生への研修、地域療育会議やファミリーサポート育成事業等地域支援に取り組む中でも、支援現場の重点課題にも直接バックアップしている。園長は中堅職員に「役割を持たせる、仕事を任せる、クラスの意見をまとめてもらう」ことでリーダー育成に取り組んでいる。一方職員は、園長が仕事を抱え過ぎて事業運営を相談する時間がとりにくいとの声があったり、情報管理の工数も飛躍的に増えたこともあり心身のストレスを感じている。今後は、事業運営や情報管理のシステム化など業務管理改革が期待される。
2	タイトル	経験の浅い職員にも分かりやすい、発達障害等に関する支援マニュアルの見直しとそれを活用した人材育成が期待される
	内容	発達相談は年々増加しており、多くの通園ニーズに応えるため、受け入れ数を大幅に拡大した。また、発達障害支援に関わる専門能力の向上は年々その要望性が高まっており、センターとしては支援マニュアルの充実を図っている。一方で、職員拡充のため新人採用は頻繁に行われており、多様な専門研修が実施されている。しかし、支援マニュアルは専門性の高い内容であったり更新が遅れている内容もあり、十分に活用されておらず、今後は初心者にも分かりやすいマニュアルの見直しとそれを活用した人材育成が期待される。
3	タイトル	今後、医療的ケアへのニーズが高まる中で看護師の増員や医療的ケアに対応できる職員の育成等の具体的な支援体制の強化が期待される
	内容	センターでは医療的ケアへの配慮も含め可能な範囲で多様な個性、障害状況に合わせた支援を行い、親子が安心した社会生活を営めるよう努めている。児童部会の調査では、多様な医療的ケアが必要な発達障害児の増加が報告されている。センターでは、主治医の診断書及び意見書に基づき医療的ケア児を受け入れているが、看護師が1名の為保護者に園内での待機と食事介助を行ってもらい通園体制を整え対応している。今後、医療的ケア児の受け入れ増に対応するためにも、看護師の増員や医療的ケアのできる職員の育成等の支援体制の強化が期待される。

